

第166号/静岡県



消防学校 ニュース



令和7年11月号

救助科(第42期)

～ 多様化する災害に立ち向う～

9月30日(火)から10月28日(火)までの約1か月間、救助科を実施し、県内16消防本部(局)から43人、台湾新竹市消防局から5人が入校しました。

救助隊員として救助業務に関する高度な専門知識と技能・技術を備え、多様化した災害救助事案への対応能力強化に重点をおき、「安全・確実・迅速」を念頭に安全管理を徹底した活動ができることを目標に、教育訓練を実施しました。県内外の消防本部(局)の救助隊員に座学や訓練指導に御尽力をいただいたほか、民間企業等の協力を得ながら、メリハリある密度の濃い訓練内容となりました。

通常点検



消防ロープレスキューⅠ



消防ロープレスキューⅡ



土砂災害対応救助Ⅰ「チェーンソー倒木伐採」



車両破壊救助訓練



都市型搜索救助Ⅰ「ブリーチング」



都市型搜索救助Ⅱ「ショアリング」



火災救助Ⅰ「屋内進入・検索救助訓練」



都市型搜索救助Ⅲ「ムービング・クリッピング」



火災救助Ⅱ「緊急時対応訓練」



火災救助Ⅲ「強制進入技術」



実火災体験型訓練



震災時対応救助



土砂災害対応救助Ⅱ「トレンチレスキュー・埋没」



都市型搜索救助Ⅳ「CSR」



(担当教官コメント)

救助科第42期は20歳の若手から45歳の経験豊富な学生まで、非常に幅広い年齢層に加え、海を越えて台湾から5人の仲間が参加するという、非常に多様性に富んだ期となりました。

入校当初は、年齢や経験、そして言葉の壁に戸惑うこともあったかもしれませんが、学生はその「違い」を障害ではなく「強み」に変えてくれました。ベテランは若手に経験を伝え、若手は体力と熱意でチームを盛り上げ、そして台湾の仲間たちとは、片言の言葉やジェスチャー、そして何より「助けたい」という共通の熱意で心を通わせました。

年齢や国籍を超え、互いを尊重し、補い合い、一つの目標に向かっていく姿は、まさに「救助活動の理想」であり、私たち教官にとっても大きな学びとなりました。

学生は、この消防学校で、技術と共に「年齢や国籍を超えた固い絆」という、何物にも代えがたい財産を得ました。全員が、それぞれの場所で、安全管理を第一に、市民の命と笑顔を守る「最後の砦」として輝いてくれることを、心から信じ、応援しています。

最後に、現場に即した熱い御指導をくださった講師の皆様にも、深く感謝申し上げます。

教務課主査 蛭間 淳(静岡市消防局から派遣)

消防職員 幹部教育 上級幹部科(第24期)

10月6日(月)から8日(水)までの3日間、上級幹部科に県内消防本部(局)から11人が入校しました。

近年、自然災害の激甚化や頻発化、感染症対策など消防を取り巻く環境が多様化する一方で、定年引上げに伴う組織体制や消防本部の広域化など多くの課題に対し、組織として効果的な施策を推進していく必要があります。本教育訓練では、管理職の役割、業務管理(消防行政)、人事管理(リーダー論)などの講義のほか、事例研究では各所属の課題解決に向けた積極的な意見交換を行いました。



(担当教官コメント)

本教育訓練では、管理監督者として必要な知見をより一層深めていただき、組織運営に活かしていただくことを主眼としてカリキュラムを策定しました。今回の講義や第24期の絆が各所属の課題解決の一助になれば大変嬉しく思います。

教務課主査 高村 勇一郎(県職員)

消防団員 専科教育 警防科(第20期)





10月26日(日)、
県内の消防団から
62人が参加し、ホ
ース取扱訓練や事
例研究、火災性状
の燃焼実験等を行
いました。

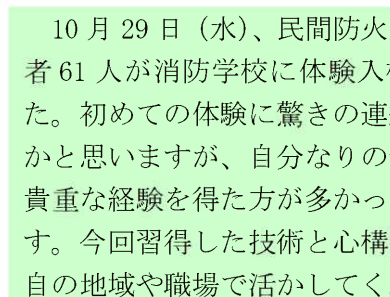
(担当教官コメント)

警防科では、火災の基本を理解していただくことを最も意識しました。座学での燃焼の3要素の確認、二重巻きホースの延長、放水時のポンプ計器の見方、ドールハウスやコントロールボックスを利用した燃焼実験等を通して、火災についての基本をおさえていただけたと思います。そして、その基本の積み重ねが、火災現場での安全な活動に繋がっていきます。

休日にもかかわらず、積極的に訓練に参加していただいた消防団員の皆様に感謝申し上げます。

教務課主査 鈴木 敏弘(富士市消防本部から派遣)

民間防火組織指導者消防学校体験入校



10月29日(水)、民間防火組織指導者61人が消防学校に体験入校しました。初めての体験に驚きの連続だったかと思いますが、自分なりの気づきや貴重な経験を得た方が多かったようです。今回習得した技術と心構えを、各自の地域や職場で活かしてくれる事を期待します。

【民間防火組織指導者とは】

住居等からの火災発生を防止するため、地域の女性及び少年を中心に防火意識の啓発のために育成された、女性防火クラブ・少年消防クラブ・幼年消防クラブ等の指導者を指す。



消防職員 幹部教育 初級幹部科(第27期)

10月9日(木)から23日(木)までの10日間、組織の中核を担う18人が本校へ入校しました。幹部職員の責務を学ぶとともに、災害現場での部隊管理や現場指揮といった災害対応力の強化を目標に、多岐にわたる教育訓練を共に実施しました。



(担当教官コメント)

主に、【現場指揮】において、更なる知識、技術向上のためカリキュラムを構成しました。御協力いただきました講師の皆様には感謝いたします。

また、入校生の皆様が真剣に取り組む姿勢に、自分自身も刺激を受けました。学びに終わりはありません。歩みを止めることなく、今後も消防人として責務を共に全うしていきましょう。

ここでの時間が、今後の皆様のお力となれば、担当として幸いです。

教務課主査 山下 大輔(駿東伊豆消防本部から派遣)

女性消防団員研修会(第8回)

(担当教官コメント)

10月19日(日)に女性消防団員研修会を開催し、県内の女性消防団員37人が入校しました。

講義では、午前にはNPO法人災害支援ネットワークの落合美恵子様を招き、「避難所運営における女性消防団員の在り方」に関する座学を行い、牧之原市で起きた竜巻被害の現状や震災時の避難所生活における問題点や女性団員だからこそできること等、様々なアドバイスをいただきました。

また、午後に火災性状やドールハウスを使った燃焼実験と搬送法、止血法を行い、煙の危険性や、日常にあるもので行う応急手当方法を学び、災害時の避難誘導や火災活動時における常備消防との連携強化の重要性を再認識していただきました。

入校生は、熱意を持って前向きに受講されており、大変感謝しています。この研修会が今後の各地域における普及啓発活動に活かすきっかけとなっていいただければ幸いです。

教務課主査 水野 清人(磐田市消防本部から派遣)



避難所運営における女性消防団員の在り方
(グループワーク)



火災性状



燃焼実験(ドールハウス)



搬送法

白鳥校長の一言（時事雑感）

訓練に想う

師走に入り、朝晩の冷え込みも強まってきました。と同時に、火災の発生しやすい時期を迎えています。先日大分市佐賀関で発生した大規模火災は、180棟以上が延焼する甚大な被害となりました。被災されました方々に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

さて先月は、警防科、中級幹部科等の教育訓練が行われました。修了の直前には、訓練の集大成となる総合訓練や両科合同の指揮連携訓練を間近で見学しましたが、どの学生も意欲的に取り組んでいて大変頼もしく感じました。

人は正しくイメージできない状況に対して、効果的な対策を具体化できません。その意味で訓練は予防接種に似ています。ワクチンを接種することで、外敵（ウイルス等）に対する免疫を獲得し感染や重症化を予防するのと同様に、訓練を行うことで災害を疑似体験し、外敵（未経験の災害等）に対する対応力を高め、その予防や被害の軽減化を図ることができます。このように訓練は大変重要ですが、適切かつ効果的な対応力を身につけるまでには、地道なステップが欠かせません。

例えば警防科では、専門的な知識を習得するための座学と、図上と実技による訓練を並行して行います。火災性状や消防戦術、安全管理など消防活動における重要知識を学びつつ、訓練でこれらを確認。さらに総合訓練へと一段ずつ階段を上がるようにして熟度を高めていきます。訓練の実効性を高めるため、本校の教官は一連のカリキュラムの構成を研究しています。災害が複雑・多様化している中、修了した学生には、消防本部（局）に戻った後も定期的に訓練を繰り返すことで、住民の皆様の期待に応えられるよう一層成長してほしいと願っています。

最後に、東日本大震災の教訓として心に刻まれている言葉を紹介して終わりたい。
「備えていたことしか、役には立たなかった。備えていただけでは、十分ではなかった。」
～「災害初動期指揮心得」（国土交通省東北地方整備局）より～



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎: 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

